

# ICT教育通信

令和3(2021)年11月18日  
第8号 小郡市教育委員会

味坂小学校公開授業 第4学年総合的な学習の時間  
「人にやさしいまじゅくり」授業者 久保田直哉 先生

【主眼】点字体験、認知症についてまとめたことを基に、ロイノートを活用して「誰もが安心して生活できるために大切なこと」を整理し考えをつくらせたり、考えを交流したりすることができるようになる。

ICT教育通信

ICT教育通信

自分の考えた大切なことを  
タブレットで紹介しよう。

【学んだこと(協働・アンケートより)】

- 単元を通して、思考ツールを活用することで、自分の考えの変化が可視化できていることがよかった。
- 様々な思考ツールの活用の仕方があったことが分かった。
- ノートとタブレットの使い分けがなされていた。

【今後の課題(協働・アンケート等より)】

- 特に総合では、探究の目的を明確にすることが、ICT活用の必然性を高める上で不可欠。
- 思考ツールを効果的に生かすには、次のステップにつながる考えを話し合うことよい。
- 全体交流の場での画面共有は、大型提示装置だけでなく、個人のタブレットにも一斉送信ですと分かりやすい。

【福永教頭先生(三国小学校)からの指導・助言より】

- 自分の考えや新たな課題をつくり、探究の過程を繰り返していくためには、交流において、交流の視点を持たせ、多様な体験を基にしたスレを感じさせるようにする。
- ICT活用については、右図のように4つの活用に分けて考え、教育課程内と教育課程外での活用のねらいや内容に合わせて使い分け活用していくことよい。

【タイピングの正しい指使いは、最初が肝心です!】

子どもたちを見ていると、指1〜3本でタイピングをしている姿を見かけます。これが習慣づいてしまうと改善が難しいものです。これから先を考えると、今のように正しいホームポジション(指の使い方)でタイピングを覚えておく必要があります。各学校での実態の確認と計画的な指導をお願いします。

## 「デジタル・ディバイド(情報格差)」 西日本新聞(R3.11.14朝刊)記事を要約

- 情報通信技術(ICT)の恩恵を得られるか否かで生じる格差をデジタル・ディバイド(情報格差)と言う。教育的・社会的・経済的な格差として連鎖する社会問題。
- GIGスクール構想では全ての小中学生に機器を配布し、ネット環境のない家庭を支援する自治体もある。子どもデジタル・ディバイドを是正する願があるのだから。ただし子どもが大人の期待通りに使うとは限らない。「習い事から帰宅した子が夜更かしして動画を見て困る」という家庭もある。望ましくなくせ慎重に親制限や制限設定を設けるため、全員に程よい規制をするのは難しい。
- 「機器を家に持ち帰らない」や「学校が指示したこと以外で使わない」という規則を設けると、私物のICT機器を有する家庭の子どもだけがネット上の学習機会を得られ、格差の助長になりかねない。自宅でも学びに利用するために、各家庭のルールと見守りが重要。学校が示す規則に加え、機器を何にどのくらい使うかを親子で約束するとよい。学校は配布した機器に施している制限設定を保護者に説明し、家庭での使用状況を聞き、学習に有益な情報を多く提供できることが望ましい。
- 教師と保護者が協力し、どんな使い方と成長を期待しているのかを子どもにも伝えたり、どう使いたいかを子ども自身に考えさせたりすることも大切ではないか。

→ 情報格差を是正し、全ての子どもたちがICTの恩恵を受けることのできるよう、活用状況を把握し、制限と子ども主体のバランスを図っていきたいと思います。

立ち止まって考えることを大切に～子どもたちは「これからの時代を生きる1人の市民」～

小郡市教育委員会 人権・同和教育課 指導主事 久野 智司  
教育委員会(学校教育課、教育総務課、人権・同和教育課)では、昨年度後半より定期的に、関係団体と情報交換会を行っています。先日、第6回情報交換会を行いました。その中で、①タブレット端末を用いた学び合いは考えを深めるために有効であること、②検索等の子どもたちの活用状況を確認し、必要な指導と制限を行うこと、③Wi-Fi通信料負担軽減については国・県に要望を上げていくこと等について意見交換を行いました。

子どもたちに対しては、禁止する事柄だけを言うのと、かえってそこに興味を持つことにもつながるので、良い活用(方法や事例)についても提示していくことが大切です。情報化社会の進展に伴う利便さ・良くなっている面と偏見・差別が混じったこの社会を生きていく1人の市民としてどう生きていくのかを考えることを「デジタル・シティズンシップ」といい、上記の新聞記事をもつながる視点です。授業づくりの際も、時々立ち止まって自他の活用内での振りの振り返りを意識的に入れていくことの大切さを感じます。今後も、人の思いを大切に、つながり合って正しい方向へ心を動かさせ考えようとする「自律」と「共想」の力を高めていきましよう。